



×



⑥

The Fourth Year

最近僕は、ユニセフハウスという世界の途上国の子供達の現地の様子を体感することができる場所に行きました。途上国の子供達は、それぞれの日常の中で苦しんでいる



○あおい
・高校1年生

前回に続き、日常生活の中で、SDGsや仏教の教えにつながると感じた気づきについて紹介してもらいました。また、メンバーたちの気づきについて、曹洞宗のお坊さんの視点から見えたことを解説してもらいました。

ます。ある13歳の少女は毎朝早く起きて、片道4時間かけて生活に必要な水をくみに行きます。ですが、その水は安全な水とはいえず、でもその水しかありません。水をくみ終わったらまた4時間かけて家に帰ります。学校にも通えず、家の手伝いをしないとけません。僕は、ユニセフハウスで水入りのツボを持ちました。凄く重たかったです。そこで僕は、自分達の生活がどれだけ恵まれているのかわ覚しました。僕は、そういう事が起きていると知っていました。体感して初めてその深刻さが伝わってきました。この体験で「どんな子供に対しても、不平等な扱いをしてはいけない。なぜなら、子供は未来のためにあるから」と学



○あおい
・高校1年生

びました。SDGsの1番と6番「貧困をなくそう」「安全な水とトイレを世界中に」に繋がります。

みなさん曹洞宗の宗教行事にどのようなものがあるのかご存じでしょうか。4月8日の釈尊降誕会や、12月8日の成道会など、大切な行事が1年間を通して行われています。そんな年中行事の中で、私の学校では7月1日に「みたままつり」またの名を「盆会」が行われました。みたままつりとは先祖に感謝し、冥福を祈る法会のことです。亡くなった先祖に感謝や冥福の想いを込めて全校生徒で三





帰礼文を唱和しました。私たちが今を生きていることができるのは、幾年も昔から数珠のように命のバトンを繋いでできてくれた先祖がいたからといえます。もしその中の1人でも欠けていたら、もし先祖の中の1人がなにか人生の選択の分かれ道に立った時に、実際に選んだ方とは逆の方に進んでいたら、もしかしたら今の自分は無いのかもしれない。そう考えると「縁」という言葉はまさに仏教の「一期一会」の教えを具現化していると思います。ひとつひとつの出会いに感謝して、精一杯頑張って生きて次の世代にバトンを繋ぐ。きっとそれが私たちが先祖から託された使命のひとつなのではないかと思いました。

執筆メンバーの学生さんが書いてくれたステキな文章を読み、自分の関心のある分野を仏教や禅の教えと繋げながら理解し学んでくれていることをとても嬉しく感じました。お坊さんの立場から改めて感じたこと、共有したいことを書き記しておこうと思います。

仏教は「お釈迦さま」という人から始まった宗教です。お釈迦さまは「神さま」のような超人的な存在ではなく、普通の人間として生まれ、失敗や挫折も経験しながら「人間として生きるべき正しい道」を見つけ、それを80歳で亡くなるまで人々に伝え続けた人で、ですからその教えの内容は実に人間的で優しく、温かいものだ

と私はいつも感じます。

そのお釈迦さまの伝記に「生まれてすぐに七歩歩いて「天上天下唯我独尊」といった」という言い伝えがあります。あおいさんが書いてくれた通り、「釈尊降誕会」として全国のお寺や学校で誕生日のお祝いが行われます。この言葉は一見すると「私だけが一番偉い」と勘違いしそうになるのですが、本当の意味は「人は誰でも、誰にも代わるることのできない生命を生きている」ということです。伝説自体は、後の時代の創作によるものでしょう。でもこの言葉の中に、仏教が大切にしている人間尊重の姿勢が端的に現れていると私は思うのです。

いま、地球上に八十億の人間が





いるといいます。そして過去には、数えきれないほどの人間がこの地球上に生きていました。その誰もが、誰にも代わりが効かない唯一無二の存在です。

一方で世界の状況は、ののほさんが指摘する通り、人種や経済など、生まれる時代や場所は選べないのに、生まれた瞬間から大きな差が生まれているのも事実です。かつての苛烈な人種差別も、法律や制度では改善されてきているものの、人々の意識をすべて変えるまでには至っていません。Minatyさんが指摘する水に関わる問題、さとこさんが指摘するセクシャルマイノリティーに代表される「生きにくさ」を抱える人々の苦しみも、解消されているとは決

して言えない状況です。こうした中、私たちがまずできるのは、

「相手の苦しみを、自分の苦しみに引き当てて感じる」事だと思っております。仏教に「同悲・同苦」という言葉がありますが、「もし自分が逆の立場だったら」と想像力を深め、感じることで、自ずと行いや言葉は変わっていくはずですから。みなさんが言うように、永遠に変わらないものは何一つなく、状況は刻々と変化していきます。時代にただ流されるのではなく、逆に闇雲に抗うのでもなく、自らの力で正しく理解し、その理解から理想を描き、理想の実現のために行動していくことこそが、私たちに求められているのだと思います。

★新メンバー紹介



○たろう
・高校1年生

今月から執筆メンバーに入りました、たろうです。よろしくお願ひします。僕はお寺巡りや仏像が好きで学校のプロジェクトでも神社仏閣のプロジェクトをしており山藤先生より『てらスクール』のことを教えていただいたことがきっかけで今回入りました。この『てらスクール』で、たくさんの仏教の知見を広げ、また編集はやったことがない分野なので新たな挑戦として、教えてもらいながらみなさんと楽しく頑張っていきたいと思っております。